

令和4年12月13日

保護者様 (家庭数)

四街道市立吉岡小学校
校長 米村 貴

令和4年度第1回学校評価の結果について

短日の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、標題の件につきましては学校評価の回答にご協力をいただきありがとうございました。
結果がまとまりましたのでお知らせいたします。つきましては、皆様からいただいた貴重なご意見
やご要望を真摯に受け止め、今後の本校の教育活動の更なる充実に生かしてまいります。

記

- 1 アンケート20項目の集計結果について
別紙「円グラフ」のとおり ※アンケート回答率95.5%
- 2 自由記述欄について
以下のとおり公表し、回答いたします。

(○：好評価をいただいたもの △：ご指摘やご要望をいただいたもの →学校からの回答)

教職員に関すること

- 先生方には、コロナの大変な状況の中、子供たち一人一人に目を向けて接していただき、本当に感謝しております。吉岡小学校は、みんな良い子供たちが育っていると思いますので、今後ともご指導
くださいますようよろしくお願い致します。
- お褒めの言葉をいただきありがとうございます。吉岡小学校の子供たちは、明るくのびのびとして
おり、学習や運動も一生懸命取り組んでいます。学校のシンボルであるひまわりのような明るい笑
顔や気持ちのよい挨拶が学校中に広がっています。これも、各ご家庭や地域でお子さんを大切に育
てくださっていることや本校児童全体を温かい眼差しで見守ってくださっているおかげです。こ
こでいただいたお褒めの言葉を励みに、子供たちの豊かな成長にお役立ちできるよう全職員で精一
杯取り組んでまいります。
- 校長先生をはじめ、先生方が子供たちに対して熱心に向き合ってご指導くださり感謝しています。
→温かいお言葉をありがとうございます。これからも多くの子供たちや保護者の皆様にこのように
思っただけよう全職員で努力してまいります。
- △学校自体の生徒人数が少ないので、もう少し一人一人の言動を見守っていただけたらと思います。
(高学年になっても自分から発言できない児童もいるので)
- 子供たち一人一人の思いや特性を理解し、常に寄り添う心をもつことで、言動を見守りながら適切
な支援や指導をしてまいります。教師側からの圧力を感じて言いたいことが言えないなどの苦しい
状況に追い込むことがないよう温かい心で子供たちに接してまいります。
- △個人面談での内容で、本人が授業中につまずいていたところや家庭では見られない学校での様子、
お友達との関わりなどをもう少し具体的に教えてもらえたらと感じました。
- 学習面や友人関係など、子供たちの学校での様子についてより詳しくそして分かり易くお伝えでき
るよう努めてまいります。個人面談は短い時間ではありますが、保護者の皆様のご質問にもお答え
できる時間を確保するなど効率的に面談を進めてまいります。

△先生方の言葉づかいが気になります。子供からの話で、男性の先生が「おまえ」と女性の先生が「あんた」と言っているのを聞いており、私の子供は「あんた」と言われて嫌だったと言っていました。うちでは、子供に「あんた」と言ったことがないのでショックだったようで、他の子にも「あんた」と言っていたと言っていました。よくない言葉だと思います。特に「あんたたち」とは違い「あんた」と言われるのはショックだと思います。

→教師側からの言葉遣いにより、お子様やそれを聞いていた子供たちに不快な思いをさせてしまい、大変申し訳ありません。学校では「言葉の力」ということについて重きをおいています。教職員に対しては「子供たちが前向きになれるような温かい言葉をかけよう」と共通理解を図っています。また、子供たちには「お友達が傷つくような言葉ではなく言われて嬉しい言葉をかけよう」と話しています。教師側から子供たちのことを「おまえ」「あんた」と呼ぶことは、子供たちの人権を尊重できているとは言えません。全職員で日頃の言動を振り返り、子供たちによきお手本になれるよう努めてまいります。

○運動会では、校長先生が率先して準備や片付けをされていて素晴らしいなと感じました。もちろん他の先生方も一生懸命に動かれていて素敵な運動会になりました。ありがとうございました。

→職員の働きぶりを評価していただきありがとうございます。大変励みになります。運動会の時は、バルーンリリースなどもあり、忙しかつたにも関わらず、多くの保護者の皆様にご協力をいただき大変ありがたかったです。これからも教職員一同、様々な場面において率先垂範の心を忘れず子供たちのよきお手本になれるよう努めてまいります。また、子供たちの充実した学校生活のため、保護者の皆様と力を合わせていきたいと思っております。

学校だより等学校から発信しているものについて

○お世話になっております。学校だよりの校長先生のお話、ひまわりの折り方の紹介、運動会での種目のタイトル等々、子供たちの心が動くような配慮や工夫をいろんなところで感じます。お忙しい中でありありがとうございます。

→学校だよりやその他の文書やお便りについては、各担当が子供たちの頑張っている姿やご家庭で読んでくださる保護者の方々のことを思い浮かべながら作らせていただいています。このようなお言葉を頂戴できること、大変ありがたく思っております。これからも、学校からのお便りが子供たちや保護者の皆様の心に響くものをお届けできるよう努めてまいります。

○学校だよりにより校長先生が全校朝会で話される内容が掲載されていますが、とても分かりやすく、毎月読むのが楽しみです。情報提供ありがとうございます。

→ありがとうございます。全校朝会では、吉岡小学校をもっともっと素敵な学校にするために、毎月1つのテーマについて子供たちと共に考える時間にしたいと思ってお話をさせていただいています。これからも全校朝会に限らず、学校の様子をたくさんご紹介していきたいと思っています。

○マチコミを使った連絡や修学旅行の説明会での実物を見せてくれる説明など、保護者への伝え方が丁寧にされていてありがたいです。今後もよろしく願います。

→学校という場所が閉鎖的なものにならないよう、マチコミ等を活用して学校の取組や諸連絡などを各家庭にお伝えしたいと考えています。また、修学旅行の登山など非日常的な活動については、これからもより具体的に分かりやすいご説明を心がけてまいります。

児童の様子や学校の教育活動について

○子供たちの特性にあった学習、支援をしていただいていることに心から感謝しています。運動会の練習で心身ともに疲れ切っている様子にいち早く気が付いてくださり、クールダウンの時間を設けて息子の生活をより良くして下さったことが大変ありがたかったです。学校でコントロールしていただくことで家庭でも穏やかに過ごせ、翌日また落ち着いて学校に行ける良いリズムが取れています。親だけでは育てることが難しい面もあるので、先生方には日々感謝しています。これからも困り感をもつお子さんと悩みを抱えた親御さんを一人でも多く笑顔にしてあげてください。

→我々大人も含め、人間誰でも得手不得手があったり調子が良い時や悪い時があったりします。そのような個々の特性や不安などの気持ちの変化に気付くことができるようこれからも努力してまいります。

ます。そして、今年度の学校教育目標である「笑顔いっぱい吉岡小」を完成させられるよう、子供たちや保護者の皆様に寄り添える学校を築いてまいります。

△学校での生活態度はよくわかりませんが、友達との会話のしかたや接し方がリーダーシップとはかけ離れているかなと感じる。

→友達同士の会話の中で「～しろよ」「～してんじゃねえよ」などのような強い口調や命令口調、相手を否定する表現が気になる場面があります。しかし、リーダーシップとは、正しい方向に仲間を導くことであり命令やきつく指図をすることとは違うと考えます。子供たちは外部からの情報の中で、正しい言語や美しい表現を学んでいくものだと思っています。学校、家庭、テレビや漫画本など、子供たちを取り巻く様々な環境が子供たちの言語感覚や感性を育てていると思いますので、学校では、まず教職員がお手本となって子供たちの言語環境を整えていけるよう努めてまいります。さらに、そのような学校の考えや取組を学校日より等を通して保護者の皆様にお伝えし、学校と家庭が連携していけるよう努めてまいります。

△明らかに勉強に対する意欲が欠けているのでどう教えたらいいのか悩んでしまう。

→難しい事例ですよね。「勉強をやりたくて仕方がない」と思える人の方が少ないのではないのでしょうか。子供たちがもっと遊びたい、もっとゲームをしたいと思うのもとても理解できます。また、多くの子供たちが「勉強はするものだ」「宿題だから」という漠然とした理由で勉強を捉えていることが多く、「受験」「入社試験」「自己の研究」「キャリアアップ」などの自身の人生を左右する場面に向けた勉強の経験はほとんどありません。理想的には「勉強したくなる」場面や心理が作れたら良いかと思いますがなかなか難しいです。勉強をしたがらない子にただ単に「勉強しなさい」と言っても、いやいややる勉強になってしまい、終わった時の満足感はあまり期待できません。また、心理的リアクタンスというそうですが、「やれ」と言われるとやる気が失せるという心理法則があります。リアクタンスとは「抵抗」です。命令されると抵抗、反発したくなるものです。

そこで、いくつかご提案です。

- ①「今日の宿題は何？面白そうだね。終わったら見せて。」→終わったら、しっかり褒めてあげる
- ②「7時から夕飯だけど、宿題は夕飯の前にする？後にする？」→自分で決めると責任がもてます。
(前と答えたら)「じゃあ、美味しいご飯作るから宿題頑張る。終わったら教えてね。」
(後と答えたら)「じゃあ、宿題が頑張れるようになっておきのご飯作るからね。一緒に作る？そして、宿題も一緒にやろうか！」→一緒にという言葉はとても励みになります
- ③子供を褒める「さしすせそ」で言葉をかける
「さ=さすがだね」「し=じょうず、知ってたの!」「す=すごい、すばらしい」「せ=せいかい」
「そ=そのとおり、その調子、そうだね」→褒める、認める、励ますことが大切です。
- ④自分自身の経験から話をしてあげる
「わかる(できる)と楽しくなるよ」「1つの課題を解決すると他の課題にもその経験が生きるよ」
「子供たちが好きな物や世の中で役立っている物(ゲーム、映画、スマートフォン、テレビ、菓、安全な食べ物)などは勉強を頑張った人が作ってくれた物だから、勉強するってとても大事で凄いことなんだね」などの前向きな話をしてあげる。⇒勉強=価値がないなどの考えを無くす
ここに紹介したことはあくまでも一例です。学校でも、子供たちが前向きに自主的に学んでいける環境をつくっていきますので、ご家庭でもお子さんを励ましてあげてください。

△プールの回数が何故あんなに少ないのか理解できません。都内の公立学校では夏休み中のプールや9月下旬頃まで授業があります。3回程度なら水着もムダなので、逆にやらないで欲しいと思います。理由が知りたいです。

→本校では、新型コロナウイルス感染症が流行する前の令和元年度までは、全学年が10時間の水泳学習を実施していました。しかし、感染拡大防止の観点から、令和2年度と3年度については、市内全小学校一律に水泳学習が中止となりました。そして、今年度は水泳実施の時期に感染状況が落ち着いていたこと、様々な教育活動が従来の状態に戻り始めたことなどの社会情勢に加え、市内校長会議にて「各学校の実態に応じて、また、感染対策を講じた上で水泳学習を実施する」旨、決定

されたことを受け水泳学習を実施しました。従来は、本校では、低・中・高学年の3ブロックに分かれて水泳学習を実施していましたが、更衣場所やプール内及びプールサイドでの密を避けることを考慮し、1～6年生が単学年で学習を実施することになりました。そのため、例年より総時間数が倍増することやマスクを外した状態での活動時間をなるべく抑えることから「各学年8時間（泳力学習6時間と着衣泳2時間）」の実施としました。

また、参考ですが、文部科学省「学校体育実技指導資料第4集『水泳指導の手引（三訂版）』』によると水泳学習の年間指導は10時間と紹介されています（参照 同手引第2章実践編 p48 低学年、p54 中学年、p60 高学年）。ちなみに、今年度の市内小学校12校の実施回数は、10時間（3校）、8時間（3校、本校含む）、6時間1校、5時間1校、4時間4校となっています。

以上の理由により、今年度は各学年が8時間の学習となりましたが、感染症の状況が落ち着けば、従来の実施回数に戻す方向で考えています。最後に、このような背景を、水泳学習を実施する前に丁寧にご説明しておくべきでした。情報が不十分だったこと、申し訳ありません。

△運動会の徒競走で走る順番がわからず、ビデオ、写真撮影が大変でした。上のクラスのお友達は手紙が配られたとのこと。兄が1年生の頃は同じく手紙で知らせてくれました。学年によっては（原文には学年の記載あり）、自分でもよくわかっていなく、伝えるのもうまくできないと思うので、前もって順番が知りたかったです。

→学年によって対応が違ったことで、ご不便をおかけして申し訳ありません。特に、学校全体では、「全学年が走る順番を知らせる（知らせない）」という取り決めはしていませんでした。次年度は、全学年で走る順番がわかるように準備を進めていきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症における対応について

△体調が悪い時、小中学生の兄弟と一緒に欠席や早退をしなければならないことについて再検討をお願いしたい。小学生は、まだ体調や気持ちが不安定で欠席や早退が時々ある。もちろん、コロナの感染対策であることは十分承知しているが、全くコロナの心配も無い体調不良（早退）もあった。そのような時も兄弟が同じ対応をとらなければいけないのはとても残念だった。

→本件に関しては、令和4年10月11日付文書でお知らせしたとおりの対応を現在も継続しています。

1 同居家族に風邪症状があっても登校できる場合

- (1) 風邪症状が見られる家族が病院でPCR検査または抗原定性検査を受け、医師から「陰性」と判定された場合
- (2) 風邪症状が見られる家族が個人で県等から配付された抗原定性検査（薬事承認されたもの）を実施し、「陰性」だった場合
- (3) 風邪症状が見られる家族が病院で診察を受け、PCR検査等の有無に関わらず医師から「新型コロナウイルス感染症ではない。」と診断された場合

※ただし、上記3点全てにおいて、児童本人に風邪症状がないことが条件です。

※(1)～(3)に該当しない場合は、今までどおり登校を控えていただきます。

上記のとおり、登校できる（早退しなくてもよい）条件として、①本人に風邪症状がない。②同居家族に風邪症状があっても、PCRまたは抗原検査の結果が「陰性」だった。または、医師から「新型コロナウイルス感染症ではない」と診断されたこととしています。よって、検査や診断が無い状態での風邪症状については、従来どおり欠席または早退の対応を継続していきます。

しかし、学校としても子供たちにはなるべく学校に来てほしいですし、早退等のご苦労もおかけしたくない気持ちです。上記のような対応は、市教育委員会からの通知文や県のガイドラインに則り、市内の小学校が共通して取り組んでいることであることをご理解いただければと思います。県や市から新たな通知や指針が示された場合は、速やかに保護者の皆様にお知らせし対応してまいります。

△給食の黙食、パーテーションについての見直しと屋外の活動でのマスクの着用の自由化を提案します。今一度、見直す時期ではないでしょうか？ご検討よろしく申し上げます。

→現在、給食を含む教育活動は、「新型コロナウイルス感染症 学校における感染対策ガイドライン（令和4年9月5日版 千葉県教育委員会）」に則って実施していますが、そこでは、工夫を講じた場合に「対面での黙食」が許可されていました。しかし、現状、「対面での黙食」に踏み切れるほど教室に十分な広さがないことなどにより、現状のまま給食を食べています。参考までにですが、市内12小学校の全てが、今でも給食時はパーテーションを使用しています。

また、11月29日に文部科学省から県教育委員会に出された通知文によると、ある一定の措置を講じた場合には、「学校給食での会話を可能とする」と示されました。今後、本通知に伴い、千葉県教育委員会のガイドラインが改定されたら、学校でも対応を再検討する予定です。ここで、現在のガイドラインと今回の通知文の記載の一部を紹介します。

【現時点での対応の規準】
「新型コロナウイルス感染症 学校における感染対策ガイドライン」（令和4年9月5日版 千葉県教育委員会）
<ul style="list-style-type: none"> ・給食、昼食等を含む飲食する場面において「対面での黙食を可能とする」条件 ①机上で前左右の3方向にアクリル板を設置する ②ランチルーム等の広いスペースを活用して児童生徒間の距離を確保する ③教室で円形や四角形に座席を配置するなど児童生徒間の距離を確保すること ④会話は食事後にマスクを着用して行うこと

【今後、参考になるであろう規準】
「11月25日に変更された『新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針』に関連して、学校運営に当たって特に留意すべき点等についてお知らせします。」 (令和4年11月29日付 事務連絡 文部科学省)
<p style="text-align: center;">座席配置の工夫や適切な換気の確保等の措置を講じた上で、給食の時間において、児童生徒等の間で会話を行うことも可能ですので、感染状況も踏まえつつ、地域の実情に応じた取組を御検討いただくよう、よろしくお願ひします。</p>

また、屋外でのマスクの着用についてですが、学校では原則「新型コロナウイルス感染症対策『屋外・屋内でのマスクの着用について（厚生労働省）』」に則って対応しています。また、グラウンドでの体育の場面では、「マスクは外していいよ。もちろん、強制ではないから心配なら外さなくてもいいよ。」「マスクを外したら近くの友達とは会話はしないよ。」と声をかけています。よって、屋外でのマスクの着脱を強要はしておりません。先述の厚生労働省の資料によると、「人との距離（2m以上が目安）が確保できる場合はマスクの着用は必要ではない」とあり、具体的には下表のとおりです。このような推奨事項を基本とし対応していきますが、子供たちの発達段階によっては、ガイドラインをただ伝えるだけで適切に実行できるとは限りません。よって、教師側から率先にてマスクの着脱については声をかけていきます。

マスク着用の必要がない場面	
屋外	<ul style="list-style-type: none"> ・人との距離が確保できる場合（2m以上） ・人との距離が確保できなくても、会話をほとんど行わないような場合 <ul style="list-style-type: none"> <例>離れて行う運動や移動、鬼ごっこなど密にならない外遊び、自然観察や写生活動 等
屋内	<ul style="list-style-type: none"> ・人との距離が確保でき、会話をほとんど行わないような場合 <ul style="list-style-type: none"> <例>個人で行う読書や調べたり考えたりする学習
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外の運動場に限らず、プールや屋内の体育館等を含め、体育の授業や運動部活動、登下校 ※運動部活動において接触を伴う活動を行う場合には、各競技団体が作成するガイドライン等を確認しましょう ※活動中以外の練習場所や更衣室等、食事や集団での移動を行う場合は、状況に応じて、マスク着用を含めた感染対策を徹底しましょう。

△学校長米村様

いつも子供達がお世話になっております。

学校でのコロナ対策ですが、コロナがはじまりもうすぐ3年、変異を繰り返した現在のコロナウイルスは致死率50%以下の2類感染症ではないことは、ほとんどの大人達が感じているのではないのでしょうか？給食時のアクリル板をなぜまだしているのでしょうか？千葉市の小学校はしていませんか？学校以外で飲食されていればお分かりでしょうが、大人はマスクを外して向かい合わせで談笑しながら食事をしています。なぜ子供達だけ許されないのでしょうか？子供達の1年は大人の何倍も貴重な時間のはずです！どうか愛知県やその他の地域でも緩和するように子供達の黙食を見直しては頂けないでしょうか？

又、マスクに関しても10/14厚労省から衛生主管部へ、10/19文科省から教育委員会への文書では「体育の授業や運動部活動の活動中、登下校の際には感染対策上の工夫や配慮を行いながら、児童生徒に対してマスクを外すよう指導すること」と記載しています。体育では、先生（大人）が外さなければ子供達は外せません。外したくない子もいると思いますが、3年間も我慢をしてつけている子にそろそろ寄り添っていただき、外では先生達が進んで外して頂けないでしょうか？もし、可能ならばその際は、10/14文書「周知に当たっては本人の意に反してマスクの着脱を無理強いすることにならないよう丁寧な周知をお願い申し上げます。」と記されているように、子供達の間でマスク差別やいじめにつながらないように対応して頂ければと思います。

コロナ禍で小中学生の自殺、拒食症が増えているのはご存じだと思います。どうか、未来を担う子供達の心と体を大切にしてください。よろしくお願い致します。

→様々なご指摘やご要望ありがとうございます。校長宛でいただいた要望等に対する回答の中に、校長個人としての思いや考えをお伝えします。時に極端な表現が入ってしまうかも知れませんがご了承頂ければと思っています。

まず、回答の前に校長米村としての私見を述べます。私は、新型コロナウイルス感染症の拡大や未だ終息していかない状況の中で子供達は被害者だと思っています。特に、全国一斉休校や緊急事態宣言が行われていた頃は、10代以下の児童生徒の感染は非常に少なく、一部の大人たちがマスクの着用や人が多く集まる場所での行動に責任をもたない為に感染が広まり、そのために、子供達の大切な日常生活が奪われることに苛立ちを覚えました。みんなで歌が歌えない、楽しい給食の時間に友達と笑いながら食べられない、修学旅行に行けない、友達と手を繋いだり喜びのハイタッチができない、卒業生を送り出す時に握手をしたり肩を寄せ合って写真が撮れないなど、ついこの前まで当たり前だったことが禁止され、もし、今までどおりにしようものならきつく非難されたり止めるよう指導されたりという状況になりました。

そんな中、吉岡小学校としては「一斉休校や緊急事態宣言の発令等がない限り、学校行事や様々な教育活動は感染対策を講じた上で積極的に行っていく。子供達にマスクの着用はお願いすることになるが、価値ある体験や一生のうちに一度しかないこの瞬間が過ぎていくのをただ黙って見過ごすことはしない」と決めました。もちろん、その判断には賛否両論や「なぜやるんだ。」「なぜ、もっとやらないんだ。」という様々なご意見があることは十分承知していましたが、可能な限り子供達の活動は止めるべきではないという考えで実行してきました。よって、市内の他校で中止した行事や取りやめた教育活動を、本校では教職員の工夫と子供達の協力によってたくさん実践してきたと思っています。その決断と実践には、感染対策や日々の健康管理、持ち物の準備等、保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそと感謝しております。

ここからは、ご要望内容についてお答えします。

まず、給食時のアクリル使用と黙食の見直しについてですが、先述の通り、現行のガイドラインに沿って対応していますが、文部科学省の通知文を受けた千葉県教育委員会の新たなガイドラインの内容を鑑み、今後の対応を決めていきます。なお、千葉市との違いについてですが、千葉市内の公立小中学校は「千葉市教育委員会」の管理下にあるのに対し、本校などの千葉市以外の公立小中学校は「千葉県教育委員会」の管理下にあります。そのため、千葉市内の小学校と対応が違う場合もあることをお伝えしておきます。

体育の授業中におけるマスクの着用については先述のとおりです。ただし、体育館での体育時においては、距離が近いことが多いためマスクを外すように声をかけることは少なかったと思います。もちろん着脱についての強要はしませんが、身体的な距離や会話の有無、運動の強度夏場の暑さ等を見極めながらマスクを外すことを積極的に声をかけていきます。また、ご指摘のとおり、教師側から進んでマスクを外さないと子供達は外しづらいことはあると思います。この件については、1学期から、「マスクを外した方がよい時は、積極的に教師側から外していこう。そうしないと子供達も外しづらいよね。」と共通理解を図っています。ただし、教職員に対しても強要はしていません。また、体育などの指導中は、どうしても子供たちと対面状態で一定時間教師がしゃべる場面が多くなります。このようなこともあり、教師側からマスクを外しにくい場面もあります。

最後に、コロナ禍で子供達の心身に様々な影響が出ていることは十分承知しております。マスクの下の素顔を見せることに抵抗を感じている子、マスクを外している人を見ると感染させられるのではないかと不安になる子、自分（我が子）が感染したら友達が避けていくのではないかと不安になる子（保護者様）、各種大会や校外活動等ができなく目標や目的がもてなくなっている子、マスクをしていても人が近くに来ると後ずさりをして距離を保とうとする子などがいて、たくさんの子供たち（大人も含め）が今にそして未来に不安を感じているだろうと思っています。

冒頭で述べましたが、本校では「学校行事や様々な教育活動は感染対策を講じた上で積極的に行っていく。価値ある体験や一生のうちに一度しかないこの瞬間が過ぎていくのをただ黙って見過ごすことはしない」という思いで、子供達の今とそしてかけがえのない未来のためにでき得ることは、確かな根拠と勇気をもって積極的に取り組んでまいります。

△ここに書いて良いのかわかりませんが、コロナで子供達も色々がまんする事もあるだろうけど、放課後や休日に子供達が遊ぶ時、マスクをしないで遊んでいる子が多く感じる。現状、ずっとさせるのは可哀想だと思うが、夏ではないし寒い時期ではあるので、するように話してほしいです。人のお子様にはなかなか言いづらいので・・・。

あと、人のうちの庭にお菓子、ペットボトルなどのゴミを置いていく、捨てていくなどあります。道路で寝転び危険な遊びをしている。人のうちの敷地に入る。自転車のスピードが速い、飛び出しなど。帰る時間なのに帰らずに遊ぼうと言ってくる子もいます。何度もお話しいただいているとは思いますが、もう一度学校側からもお話ししていただけるとありがたいです。

→これまでに、放課後や休日のマスクの着用の有無によって感染が広まったり濃厚接触者になったりという場面がいくつかありました。それは、「換気が悪い室内でマスクを外して長時間しゃべりながら一緒にゲームをしていた」「袋に入ったお菓子を集団で手を入れて一緒に食べていた」などです。よって、このような状況についてはマスクの着用を勧めたり同じ袋のお菓子を一緒に食べたりしないようにと注意喚起をしてきました。他の方々からのご意見にもあるように場面や対策によってはマスクを外すべき時もありますので、放課後や休日のマスクの着脱を一律でどちらかに決めるということではできないと思いますが、これからも感染リスクが高い場面や健康観察の重要性について指導を続けていきます。

危険な遊びや公共のマナーなどについても日々指導しているところです。しかし、守られている部分や成長を感じられる部分もあれば改善の余地や繰り返しの注意喚起が必要なこともあります。特に命に関わる危険なことやゴミのポイ捨て、私有地への立ち入り等のマナーやルールについては、繰り返し指導をしていきます。指導内容や学校の取組については学校だよりやマチコミ等でお知らせしていきますので、引き続きご協力をお願いいたします。

その他

△旭中学校への通学路に不安があります。

→旭中までの距離、国道の横断、道幅、街灯の少なさ等、危険や不安を感じることはあると思います。また、路線バスの本数に限りがあり、部活動を行う上で不便であるということもあろうかと思えます。現実問題として、旭中までの通学路の改善について直接行政とやりとりをするのは吉岡小ではないかもしれませんが、本校の卒業生が毎日使用する通学路ですので、吉岡小としてできる範囲の相談や要望、保護者の皆様のご意見の伝達は行っていきます。

△吉岡小学校を卒業した後、旭中学校へ行くことに不安を感じている。(交通、通学路について)
他校に行くとしても四街道市に中高一貫校がないので他市に出なくてはいけないのかなと感じた。
今の時代を生きる子供達にとって、英検、漢検は必要であり、小学校でも少しお知らせをしてみてもいいのかな?と感じる。いつまでも昔と変わらない教育では困ると思う。

→通学路に関しては先述のとおりです。小中一貫校については、申し訳ありませんが学校として回答するのは難しいです。とはいえ、旭中学校区の小学校として、吉岡小学校での教育と旭中学校での教育がより魅力的なものになるよう努力してまいります。

英検や漢検については、ご指摘のとおり今まで特にお知らせはしていませんでした。英検については、四街道市の取組として以下のようになっています。

- ①市内在住、在学の中学校3年生を対象に、英検（実用英語技能検定）が市の公費で受験できる
- ②検定料の公費負担は一人につき1回
- ③実施期間は年3回あり、各中学校が会場となる

吉岡小学校の子供たちは、英語や漢字に限らず、色々なことに興味をもって取り組んでいます。また、様々な団体からスポーツや福祉などに関する入会の依頼やチラシの配布等があります。子供たちの興味や可能性を広げられることについて、可能な範囲で学校だよりやマチコミ等を活用してお知らせしていきたいと考えています。

△通用門が開きっぱなしになっている事が多々あるので不審者が簡単に侵入できてしまうのではないのでしょうか。登校時間が過ぎたら締め切りにして正門だけにするなど、何かしら対策をお願いします。

→大変申し訳ありません。通用門の確認を正門と併せて、適切に行ってまいります。遅れて登校する児童もいるので、登校後も通用門の使用は可能にしたいと思っておりますが、その分、職員による見回りを徹底してまいります。

△地域（保護者より上の世代）との連携が足りないと感じる。もっと手伝ってくださる方や手伝いたいと思っている方は多い。社協などの連携を深めてほしい。

→本校は、保護者の方々の協力に加え、多くのボランティア活動や地域の見守り等に支えられています。今年度は、各種ボランティアの他に、保護者の方によるミシンを使った学習時のお手伝いもしていただきました。今後も、積極的に地域及び保護者の方々のお力を借りて教育活動をより充実させていきたいと思っております。

以上です。

今回の学校評価にあたっては、回答率95.5%という驚異的な数字に驚いています。と同時に、感謝の思いでいっぱいです。お忙しい中でありながら、吉岡小学校のことをそして子供たちのことを思って皆様がアンケートにご回答くださり、本校の更なる発展と子供たちの豊かな学校生活の構築のために温かいご意見や大切な要望をくださったことに職員一同感謝申し上げます。

今後も、どうぞ、よろしく願いいたします。

四街道市立吉岡小学校